
生きる為に

聖魔光闇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
生きる為に

【Nコード】
N33810

【作者名】
聖魔光闇

【あらすじ】
世界から作物の育成が無くなり、この世界は変貌を遂げていく。生物は生存の為に、他種族又は同種族を補食しなくてはならない。

序章（前書き）

モノを食わないと死ぬ。だから食べる。ただそれだけだ。

序章

生き物は生存の為に他の存在を補食し続ける。これ自体は自然の摂理であり、自然の法則でもある。これをふまえた上で、この物語を始めよう。

いつ頃だったかもう忘れたが、人間が作物を育てなくなった。

初めは、食料品売り場の面積がどんどん縮小していき、人々は物価の高騰に混乱していった。

そして街からスーパーや百貨店、デパートといった日用品店が姿を消し、廃墟となっていた頃よりこの世界は、全く別の世界へと変貌していった。

これが惨劇の始まりだった。

食わねば食われる

と、この物語を始める前に一言だけよろしいであろうか？

世界には、ありとあらゆる生物が存在する。今までならば、人間は作物や家畜、魚類と言った物を補食し、その他の種族は自然界における法則に従って補食してきた。

しかし、変貌を遂げた世界は自然の法則に完全に準じた形になり、人間も他の種族の補食対象になっていった。

この世界は、食わねば食われる世界へと変貌を遂げたのであった。

「おい！ 軽真かるま行くぞ！」

右手に真つ黒な金属バット、左手にナタ包丁を握り締めた少年は、軽真と呼ばれた少年に呼び掛けた。

スタート

「おい！ 海斗^{かいと}で、今日は何を狩るんだよ！」

軽真は金属バットを握り締めた少年に叫んだ。「そんなの外に行かねえと分かんねえよ！ それより行くぞ！ 昨日でこの前の犬全部食っちまったからな。新しいメシ狩りに行かねえとメシ食えねえぞ」海斗は金属バットをブウンと、ひと降りすると軽真に叫んだ。

「海斗！ この前みたいにここに誰かいるって痕跡残すなよ！ 寝ている間に襲われたらシャレになんねえからよ！」軽真は右手に大きなノコギリ、左手に草刈り鎌を握り締めると、立ち上がり海斗に言った。「わーてるって」と少年二人は、廃墟と化した民家の中から飛び出した。

訪来者

外に出ると腐敗臭が充満し、あちらこちらに犬や猫、鳩やカラスの死体が臍物を撒き散らしながら散乱している。

二人は、腐ったモノには目もくれず、スタスタと歩いて行った。しばらく歩くと腐敗した生物が全く無い広場に出た。「ようし、今日は何が来るかな！ また、犬はゴメンだぜ！」と海斗は金属バットを肩に乗せるとファイティングポーズをとった。「おいおい、焦り過ぎじゃねえのか」と言いつつも、軽真も戦闘体制に入っていた。

その時だった。空からの訪来者、鳩の群れが一斉に海斗達を襲った。「よおし！ 狩りの始まりだあ！」と半笑いの軽真が叫んだ。

狩り・殺戮

鳩の群れは統率のとれた攻撃を仕掛けて来る。全ての鳩が一斉に飛来するのではなく、数羽ずつ海斗と軽真、別々に飛来してきた。

しかし、半笑い状態の二人には遊び半分には感じられないように、飛来する鳩の腹をナタ包丁で切り裂き、臓物を撒き散らしながら落下させては「一羽ゲットお！」と海斗は叫び、鎌やノコギリで頭や羽を無惨にももぎ取ると軽真は高笑いをしていた。

しばらくすると鳩の群れは死すのみと悟ったのか、何処へと飛び去っていった。

油断

「メシだぁ！ メシゲットだぁ！」海斗は散らばった鳩をかき集めると、両手いっぱい担ぎ、叫んだ。「くつくつくつ、鳩の分際で人間様に勝てると思ったのかよ！ ばあゝか！」と軽真も半狂乱のまま、また鳩の残骸をかき集めていた。

「大量だぜ！ これで暫くは保つな」と海斗が軽真に話掛けた時だった。「ガッ！ 痛う！」と声と共に海斗が鳩を撒き散らしながら倒れ込んだ。「どうした！」と軽真が振り向くと、海斗の身体には無数の蟻が集り、既に頭が半分無くなっていた。「海斗お！ ……くそおお！」と、どうする事も出来ず軽真は叫ぶと、その場から走って逃げた。そのまま、隠れ家の民家の廃墟に転がり込み、喉が渴いたので鳩の血を飲んでから。「海斗が食われた」と呟いた。

襲撃

「海斗。くそお。海斗お！」と軽真は泣きながら、鳩の肉を貪り食っていた。満腹になると、泣き疲れたせいもあってかそのまま眠りについてしまった。

「ギヤア！」激痛が右足に走り目を覚ますと猫の大群が軽真を取り囲み、数匹が右足を引き千切り食っていた。「こんのお！ バカ猫風情があ！」と、右足を貪り食らう猫に鎌で一撃を与え、首を引き千切ると、もう一撃ノコギリで与えようとした瞬間、目の前が真っ赤に染まったと思うと、そのまま動かぬ肉片へと化していった。猫は軽真の頭を噛むと強引に体から引き取り、体も全て食らい尽くしていった。

終幕

この世は食うか食われるか。生あるモノは生あるモノを補食し、また補食されながら、その数を減らしていく。この先この世に残るのはどの種族か。そして、その種族はどうなっていくかは誰にも分かりません。

世界のモノはモノに食われてこの世界は赤黒く染まっていくのでした。この先、世界で目にするのは滅亡でしょうか？はたまた、一種族による繁栄でしょうか？それは、あなたの思う選択でこの物語を終焉して下さい。

これまでのご観賞ありがとうございました。

この先がありましたらまた、お会いしましょう。それでは、これにて失礼致します。

完

終幕（後書き）

今生きるこの世界が、このようにならない事を切に願います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3381o/>

生きる為に

2010年11月14日02時34分発行